

情報公開文書

研究の名称	乳がん術後内分泌療法に伴う更年期症状に対して有効な漢方薬の探索的研究
整理番号	
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	富山大学医学部 和漢診療学講座 教授 貝沼茂三郎
研究の概要	<p>【研究対象者】 2024年4月1日から2025年3月31日までに乳がん術後内分泌療法の副作用軽減目的に和漢診療科を紹介受診し、1か月以上漢方治療を継続した患者</p> <p>【研究の目的・意義】 乳がん術後の内分泌療法の副作用として更年期症状としてホットフラッシュや関節痛などがありますが、それらの症状によるQOLの低下や、内分泌療法が中止となることがあります。また最近の研究ではより長期間の内分泌療法も勧められていますが、長期に治療を継続するためには副作用のコントロールが重要な課題となります。そこで本研究では乳がん術後内分泌療法の副作用に対して有効な漢方薬を探索することが目的です。今回の我々の研究は、漢方専門医が診断治療し、乳がん術後内分泌療法の副作用に関して有効な漢方処方を探るものです。その結果、有効処方がある方剤に集約される場合にはその方剤を用いて前向きな臨床研究を行い、よりエビデンスレベルの高い研究成果を得ることにつながる可能性があります。またより多くの症例を漢方専門医が診断治療することで漢方専門医でない乳がん術後の医師がより適切に漢方薬を処方することができるフォローチャートの作成につながるという点において研究の意義があると考えます。</p> <p>【研究の方法】 2024年4月1日から2025年3月31日までに乳がん術後の内分泌療法の副作用治療目的に乳がん術後内分泌療法から和漢診療科を紹介受診した患者さんの治療経過を後ろ向きに検討し、その有効率ならびに有効処方について検討するものです。</p> <p>【研究期間】 実施許可日 ～ 2026年3月31日</p> <p>【利益相反の状況】 この研究は、研究責任者および研究分担者（以下、「研究担当者」という。）が自主的に実施するものであり、他の企業や組織は、この研究に関与しません。また、この研究の対象となる関連企業は存在しないため申告すべき利益相反関係はありません。</p> <p>【研究結果の公表の方法】 研究成果は日本東洋医学会、日本和漢医薬学会などの国内の学会で発表し、最終的な成果は査読ありの英文論文で報告します。また有用な情報が得られた場合、富山大学の公式ホームページ内で紹介します。画期的な成果が得られた際には、成果をまとめた冊子を作成し、全国の大学や研究機関、急性期病院などに配布する予定です。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法	2024年4月1日から2025年3月31日までに乳がん術後内分泌療法から和漢診療科を紹介受診した患者の電子カルテ情報（年齢、性別、身長、体重、血圧、体温、乳

(他機関への提供の有無)	がんステージング、使用漢方方剤、漢方医学的所見、内分泌療法の種類、化学療法の有無、免疫チェック阻害薬の有無、効果判定)を用いて、有効な漢方処方を検討する。なお取得する試料はなく、他機関への提供はしない。
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び機関の長の職名・氏名	富山大学附属病院 病院長 山本 善裕
研究資料の開示	研究対象者等(研究対象者および親族等関係者)のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者(研究代表機関における研究責任者の所属・氏名)	富山大学医学部 和漢診療学講座 教授 貝沼 茂三郎
研究対象者等(研究対象者および親族等関係者)からの相談等への対応窓口	<p>研究対象者からの除外(試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む)を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。</p> <p>電話 076-434-7393</p> <p>FAX 076-434-0366</p> <p>E-mail kainuma@med.u-toyama.ac.jp</p> <p>担当者所属・氏名 富山大学医学部 和漢診療学講座 教授 貝沼茂三郎</p>